








## Pierre Frick ピエール・フリック








フリック家はアルザス南部ファッフェンハイム村において12世代にわたりブドウ栽培を続けてきた。当主のジャン＝ピエール・フリックは妻シャンタルと共に12haの畑を管理。ジャン＝ピエールは両親とともに1970年にバイオロジック栽培に踏み出し、1981年にはバイオダイナミックへと舵を切った。その選択は流行でも戦略でもなく、「農業とは何か」「なぜワインなのか」という根源的な問いへの応答だった。

畑は石灰質を主体とする10以上の区画に点在し、下草を残し、耕作は最小限に抑えられる。栽培的アプローチの目的は収量を削るためではなく、畑が自ら均衡を取り戻すまで待つことであり、セラーでも同じ姿勢が貫かれる。野生酵母による発酵、添加物を排した醸造、数世代に渡り使われてきたフードル。1990年代からは瓶詰まで亜硫酸を加えない試みも続けてきた。フリックのワインに派手さはない。その静けさの奥には、時間と自然への深い信頼があり、その姿勢こそがこのドメーヌの揺るぎない核である。

	<b>◎Crémant d'Alsace - sans sulfites ajouté</b> クレマン・ダルガス サン・シュルフィット・アジュテ			近年フリックのクレマンはVT毎のブドウの状態を見て、“瓶内二次発酵”の手法を変える。19VTまでは①メトード・アンセストラル、20VTは②。21～24VT③メトード・トラディショナル。というように造り分けている。
	畑	品種：ピノ・ブラン、オーセロワ他 ※品種構成はVTにより異なる	醸造	①メトード・アンセストラル ②遅れて収穫した糖度の高いブドウ果汁を、瓶内二次発酵用の糖分とする。 ③メトード・トラディショナル。
	<b>○Pinot Blanc</b> ピノ・ブラン			ピエール・フリックの定番白ワイン。アルザスらしい、果実味の厚みと、ピノ・ブランらしい酸。
	畑	品種：ピノ・ブラン100% 植樹：1980年 位置：標高150m、東向き 土壌：石灰質粘土	醸造	約3週間のアルコール発酵 オーク樽で5ヵ月間の熟成
	<b>○Riesling (旧 Riesling Bihl)</b> リースリング (旧リースリング・ビール)			ピエール・フリックの定番白ワイン。原料としてブドウが使用される、3区画あるうちの2区画のBihlの畑で植え替えを行ったため、2019年は他の区画のRieslingを使用。そのため、先の約5年間は“Bihl”の呼称が外れる。
	畑	品種：リースリング100% 植樹：1977年(Bihl区画)、1985年(その他区画) 位置：小さい丘の上、南向き(ビール) 土壌：黄土混じりの粘土石灰土壌	醸造	11ヵ月間アルコール発酵 オークの大樽でシュールリーしながら16ヵ月間熟成

	<b>○Riesling - Rot Murlé</b> リースリング ロット・ミュルレ			備考	区画名は“赤い壁”を意味する。ストラスブルグの大聖堂のように、アルザス伝統的建築物は赤い砂岩で造られることが多い。硬い石灰質の敷石の上の、鉄分を含む褐色石灰質土壌。丘の頂上に位置する畑で、日照時間が最も長い畑の一つ。
	畑	品種：リースリング100% 位置：平野の近くの突出した丘の頂上 (Rot murle区画) 土壌：硬い石灰質の敷石の上の鉄分を含む、褐色石灰質土壌 (Rot murle区画)	醸造		
	<b>○Riesling - Vorbourg Grand Cru</b> リースリング フォルブルグ・グラン・クリュ			備考	フォルブルグ=城の前にある (アルザス語) という名の通り、ルーファック村のイザンブルク城の前にあるグラン・クリュ。地域全体で見ても、日照時間が多く、果実が熟しやすく、出来る上がるワインの熟成ポテンシャルは高い。
	畑	品種：リースリング100% 植樹：1988年 位置：標高270m、南向き 土壌：石灰質	醸造		
	<b>○Riesling Macération - Vorbourg Grand Cru - sans sulfite ajouté</b> リースリング・マセラシオン フォルブルグ・グラン・クリュ サン・シュルフィット・アジュテ			備考	フォルブルグ=城の前にある (アルザス語) という名の通り、ルーファック村のイザンブルク城の前にあるグラン・クリュ。地域全体で見ても、日照時間が多く、果実が熟しやすく、出来る上がるワインの熟成ポテンシャルは高い。2020年より生産を開始した、リースリングのマセラシオン。
	畑	品種：リースリング100% 植樹：1988年 位置：標高270m、南向き 土壌：石灰質	醸造		
	<b>○Voyages - sans sulfite ajouté</b> ヴォワイヤージュ サン・シュルフィット・アジュテ			備考	複数品種、時には複数ヴィンテッジをアッサンブラージュして造るキュヴェ。このアッサンブラージュから造られたワインは、テロワールの空間と時間の旅に誘うことから、voyage=旅というキュヴェ名を連想し名付けた。醸造方法は毎年変えるつもりで、マセラシオンすることもある。2022VTはダイレクトプレス。
	畑	品種：シャスラ2/3、ミュスカ1/3 植樹：シャスラ1980年代、ミュスカ1970年代 位置：シャスラ、ミュスカともに東向き 土壌：粘土石灰質	醸造		
	<b>○Gewurztraminer Macération - sans sulfite ajouté</b> ゲヴュルトトラミネール・マセラシオン サン・シュルフィット・アジュテ			備考	白ワイン用よりも熟度の高いゲヴュルトトラミネールを使用。黄金に近いオレンジ色。柑橘類の花、赤い果実、シナモン、バニラ、生姜の香り。余韻は長く、胡椒やラム酒、バラやオレンジのジャムが感じられる。
	畑	品種：ゲヴュルトトラミネール100% 植樹：1990年代 位置：標高350m、北東 土壌：黄土の石灰質粘土、鉄分を含む石灰質粘土	醸造		

	<b>○Pinot Gris Macération - sans sulfite ajouté</b> ピノ・グリ・マセラシオン サン・シュルフィット・アジュテ			備考	日当たりの特に良い、2つの区画のブドウを使用している。口当たりはドライだが、酸化的な甘みのニュアンスがあり、良く熟した果実を使っているの、品種固有のアロマも濃く、複雑。
	畑	品種：ピノ・グリ100% 植樹：1980年、1999年 位置：標高270m（北向き）、標高230m（東向き） 土壌：石灰質粘土、石灰石、	醸造		
	<b>○Pinot Gris Macération - Vorbourg Grand Cru - sans sulfite ajouté</b> ピノ・グリ・マセラシオン フォルブルグ・グラン・クリュ サン・シュルフィット・アジュテ			備考	フォルブルグ＝城の前にある（アルザス語）という名の通り、ルーファック村のイザンブルク城の前にあるグラン・クリュ。地域全体で見ても、日照時間が多く、果実が熟しやすく、出来る上がるワインの熟成ポテンシャルは高い。
	畑	品種：ピノ・グリ100% 植樹：2000年代 位置：標高350m、南南東 土壌：石灰質泥炭岩	醸造		
	<b>○Pinot Gris Macération - Rot Murlé - sans sulfite ajouté</b> ピノ・グリ・マセラシオン ロット・ミュルレ サン・シュルフィット・アジュテ			備考	区画名は“赤い壁”を意味する。ストラスブルグの大聖堂のように、アルザス伝統的建築物は赤い砂岩で造られることが多い。硬い石灰質の敷石の上の、鉄分を含む褐色石灰質土壌。丘の頂上に位置する畑で、日照時間が最も長い畑の一つ。
	畑	品種：ピノ・グリ100% 位置：平野の近くの突出した丘の頂上（Rot murle区画） 土壌：硬い石灰質の敷石の上の鉄分を含む、褐色石灰質土壌（Rot murle区画）	醸造		
	<b>●Pinot Noir - Strangenberg - sans sulfite ajouté</b> ピノ・ノワール ストランゲンベルグ サン・シュルフィット・アジュテ			備考	畑名の示す通り“急な斜面の丘”に位置する畑。ワインは生き生きと、活力がある。ドライフラワーやサクランボの種の風味。タンニンとブラックチェリーを余韻に長く感じる。飲み頃温度は15-17℃。
	畑	品種：ピノ・ノワール100% 位置：380m、東向き 土壌：硬い石灰質の敷石の上の褐色石灰質土壌	醸造		
	<b>●Pinot Noir - Physalis - sans sulfite ajouté</b> ピノ・ノワール フィザリス サン・シュルフィット・アジュテ			備考	Physalis＝ホオズキの咲く畑からの単一区画キュヴェ。フレッシュな果実味が前面に出るよりも、スパイス、タバコ、カシス、スモークした肉などのアロマがあり、しなやかなタンニンのソフトな口当たりのワインが得意な区画。突出した鉱物感よりも美しいバランスとエレガンスが特徴。以前は区画の名を冠さないピノ・ノワールにブレンドしていたが、樹齢も落ち着いてきたため、2020VTからは分けて瓶詰めしている。
	畑	品種：ピノ・ノワール100% 位置：東向き（ロット・ミュルレの丘に隣接） 土壌：レスを含む粘土石灰質	醸造		